

さがみはら ぼらんていあ情報誌 季刊

わくわく



座談会 手話ボランティアがはたす役割
訪問記
歩く

2020冬号

認定 特定非営利活動法人 相模原ボランティア協会

メタセコイヤ

日向 尋

太古からの眠りの中に
その樹木は沈んでいた
新世代第三紀層にあつて
北半球に埋もれていた化石は
過去の栄華をたどる
証でしかなかった

メタセコイヤと 命名され
静かに 眠っておればよかった
しかし ある日突然 中国大陸で
生きてそびえて 見出されたのだ

爾来 地球上に再びよみがえり
広がった この樹木
生きている化石と言われながら
盛大に聳え立つ 木の群れは力強い



巻頭詩		1
もくじ		2
座談会 手話ボランティアがはたす役割		3~9
ふくひフンポイント情報 ー地区社協・市社協の設立経過③		10~11
ぼらんていあ活動グループ訪問 ボランティアセンターあさみぞ		12~13
詩		14~15
人物シリーズ 48 杉本 榮治 さん		16~17
相模原の史跡ー磯部頭首工		18
4コマ漫画「わくわくさん」・情報コーナー		19



手話シリーズ 42		20~21
パズルにチャレンジ		22~23
私が選んだハイキングコース ー淵野辺駅から公園とJAXAー		24~25
情報のページ - 相f模原の高齢者支援センター		26
協会のPRページ		27
編集後記・奥付		28

手話ボランティアがはたす役割

令和元年 12月10日

あじさい会館点字制作室にて

手話サークル加絵手（かえて）

小林昭美さん

手話サークルふじみ

高橋 功さん

手話サークルみちの会

渡辺秀子さん

司会／特定非営利活動法人

相模原ボランティア協会

西本 敬

◆こうして手話の世界に

司会／今日は手話について、手話グループのみなさんに教えていただきたくお越しいただきました。では、最初にご自身の自己紹介というところで、活動を始められたきっかけなどからお願いします。小林さんどうぞ。

小林／緑区の相模湖という地区で手話

サークル活動をしています。手話サークルが始まったのは、講座を受けた人たちで、手話の高みを目指した勉強をしたいということから「加絵手」という勉強会を始めました。その頃、私も手話を始めた頃だったので、グループに入れていただいて、藤沢の講座に通うのを目指すということで勉強しました。そのうちに、指導していただいた先生から、相模湖には手話サークルがなかったのので、サークル活動に切りかえたかどうかという提案をいただき、手話サークル加絵手ということになり、そこからもう20年以上、手話サークルとして活動してきています。初めは相模湖地区が中心で、手話のサークルとして活動し、社協でのボランティア活動や小学校からの依頼で手話を教える行くとかしました。市町村合併で地域が広がり、私たちの場合はいい具合に広がりを持つようになりました。相模湖は県境で、お勤めで八王子に関係のある人が、八王子で登録通訳になった方もいます。また隣の山梨県で登録通訳になった方もいます。もちろんこの



小林昭美さん

相模原の登録通訳になった方もいます。手話検定を受けようという方もいます。私はそういうことで、勉強会の中から参加して現在に至っています。

司会／手話をやってみようと思われたきっかけは何でしょうか？

小林／あ、単純な動機ですが、当時「名もなく貧しく美しく」というドラマがありまして、そこで、手話を見まして、手話は世界共通語として伝わるのではないかと思う、そこに興味をもって、講座に通うようになりました。グループに入ってから、しつかり通じる手話をやりたいと思って、勉強するようになりました。

司会／では、渡辺さんお願いします。

渡辺／みちの会の渡辺です。私が手話をやりたいなあと思ったきっかけですが、以前、歯科医の受付をしていました、そこだろうの方ととても手話が上手な方が来られて、歯の具合はどんな具合かとかそういうことを受付の私に話してくださったんですね。ああ、この方は手話が上手で、こんなに通じるんだと思いました。私は受付の仕事をしたときに、たいていは手話通訳の方とか手話ができるお友達とかと来られるんですが、もしお一人で来られたら、少しでも手話がわかっていけば、受付としてはいいのではないかと思い、手話を始めてみたいなあという気になりました。そこで、地域の東林公民館の中の手話サークルみちの会というのに入っていたら、勉強を始めました。市内の講座にも参加しました。

司会／はいありがとうございます。では、高橋さんお願いします。

高橋／私は、平成11年に相模原ボランティア協会に入会し、そこでボランティア養成講座があるということを知り、

その後、手話なら自分でもできるかなと思って、手話を選び、平成12年に手話サークルふじみに入会しました。

◆グループの活動は

司会／ありがとうございます。では、ここで所属されているグループの活動についてお話をください。渡辺さんから。

渡辺／みちの会は平成2年に発足していると思います。東林地区の社会福祉協議会が主催して「手話入門講座」を10回シリーズで行いまして、それを基にして、卒業した人がもう少し続けたということが始まって、講師は本間先生で、とても熱心で楽しい先生でした。しばらくは手話の初級ということをやっていました。その後、手話を楽しく、広めていこうということになりました。手話で劇はどうでしょうと本間先生が提案してくださり、手話劇と手話歌がみちの会の柱の一つになっています。今はそれと勉強ですが、木曜日の夜なので、来て下さるような方がちょっと少ないですね。もうちょっと来てくださればいいのですが。

現在12名で活動しています。



渡辺秀子さん

司会／懐かしい本間さんのお名前が出ました。相模原ボランティア協会を設立したころに手話の団体からご参加されていました。東林公民館を中心に活動されているのですが、聴覚障がいの方との関わりはどうでしょうか？

渡辺／納涼会とかクリスマス会とかにおいで頂いて、楽しく活動しています。でも、最近は公民館の使い方や飲食は禁止ということがあります。場所を変えたりしながらやっています。手話劇は3月の文化祭や9月のふるさとまつりで発表して、近所の方に見ていただいています。地域を大事にしようというこ

とでやっています。ろうの方も見に来て下さいます。また、練習の時にもアドバイスして下さる時もあります。

司会／小林さんのところでは、会としての活動はいかがですか？

小林／手話サークル加絵手ですが、以前は相模湖地区が中心だったのですが、今は旧津久井町の方、橋本地区の方、山梨県の上野原で手話をやっている方なども参加しています。八王子に職場や実家があったりして八王子の手話サークルとも関連がある方もいらっしやいます。割に地域が広がった形で参加者がいます。登録している会員が20名くらいで、常時出てくるのが15名くらいです。働いている方も参加できるように、第2と第4土曜日にやっています。第2が健聴の指導者によるもので、第4がろう者に来ていただいて学習しています。それ以外に読み取りに力をいれようと木曜日の夜に数人の方が月に1回自主学習をしています。うちのサークルの目標は、聴覚障がいの方と交流して、ともに生きていける社会を作っていくということです。そのため

には手話の技術を上げていくということも大きな目標になっています。そこで、交流する機会を増やすために年に2回大きなイベントを開いています。

夏のバーベキュー大会と冬のクリスマス会です。そこには聴覚障がいの方が10人から15人おいで下さって、飲んだりしゃべったり、ゲームをしたりして楽しく交流しています。手話検定も受けましょう、バッチにもチャレンジしようということにしています。でも、高みを目指す方と交流するための手話ができればうれしいという方がおられますし、初級講座を受けたぐらいの方もいますので、サークルの中では多様な方々が手話に参加できるように、来ていただいている先生が工夫してくださっています。講師はサークルメンバーの中でバッチを取られた方をお願いしています。また、聴覚障がいの方にも講師をお願いしています。

司会／小林さんのグループでは学習にかなり力を入れておられるんですね。

小林／そうですね、会の中では、普通のおしゃべりに引っぱられることなく、

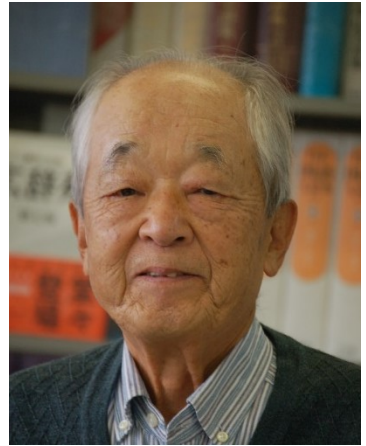
手話で会話することができていると思います。また、高みを目指す人はそれなりに、八王子や市や県の情報を入手して、様々な機会をとらえて勉強に行っています。また、手話検定はいつですよといった情報も共有しています。

【解説】

（手話検定とバッチの説明）バッチは、国の制度で手話技能が認定されたことを意味し、全国手話検定試験は、社会福祉法人全国手話研修センターが実施し、手話学習者のコミュニケーション能力をレベルに合わせて認定する検定試験である。

司会／ふじみさんはいかがでしょう？

高橋／お2人の話を聞いて、羨ましいなと思いました。ふじみは昭和56年以前から、さがみの会というのがあって、相模原ボランティア協会の設立にも関与していました。平成元年に手話サークルふじみという名前に変えまして、



高橋 功さん

以来30年くらいになります。

15年前までは手話通訳士を目指したり、手話ダンスや手話コーラスなど障がい者団体との交流も盛んにやっていました。又、外部講師を招き講演会を毎年やっていました。現在は個人的には手話通訳士などを目指している人もいると思いますが同好会になっているのではないかと思います。サークルメンバーは15名ぐらい、そのうち難聴者協会土の会の方、ろう者の方2人が会員で毎週水曜日にあじさい会館で勉強しています。当会は昔から難聴者協会土の会と関係があり、土の会の催しごとや旅行会の時は参加し土の会の勉強会にも2、3人参加しています。

◆多様化する活動

司会／3つのグループそれぞれに目指すところが少しずつ違っているとは思いますが、手話通訳士という制度が確立し、聴覚障がい者の権利として肝心なところは通訳士に同行してもらい、障がい者のコミュニケーションを支援することが定着することによって、ボランティア団体も目指すべき方向がいろいろと別れたのでしょうか。

渡辺／みちの会は、今は通訳士を目指している人はいないと思いますが、前は目指した人もいましたし、実際に通訳士になり手話通訳士として活動した人も何人かいましたが、今は楽しく手話を学ぼうという気持ちが強い気がします。

小林／手話サークル加絵手では、難聴の人や全く聴こえなくなったサークル員がいます。それ以外にやや難聴気味という方もいます。手話コーラスを公民館祭りと社協の福祉の集いで毎年、ステージ発表をしています。ただ、手話コーラスは聞こえない方はリズムが

分らないのですが、健聴の方に手話をアピールするにはとても楽しい方法です。演歌でも手話を付けられるし、その手話を見た方が、そこから手話をやってみようかという方もいる。NHKのみんなの手話を見ると、とても参考になります。手話ポエム、手話ものがたりとか見れば表情の豊かさなどで感動します。だから、豊かな手話を見る機会（ろう者との交流）を増やすなど努力しています。

教えに來られる方は、メンバーの手話の力量に差があるので、単語の練習に時間を取ったり、手話経験の長い人に文章に合わせた手話表現をしてもらうとか上手く2時間の中で全員が楽しくできるようなっています。

サークル開催の日は昼ご飯を一緒にして、来てくださるろう者とおしゃべりをしたりしていますし、外部講師（ろう者）を招いて手話学習ををしています。基本的にはろう者との交流が一番大事だと思っています。

各地域からサークルに來られるようになったのは、私の想像ですが、多分

バッチ試験を目指すなど、手話学習の場を求めて来るのではないかと思います。

渡辺／基本的にはろうの方との交流と何かお役に立ちたいなという気持ちで入ってきて、みんな手話の勉強の中からろうの方と交流をしたり、勉強の後、喫茶店でお茶を飲みながらのろうの方との交流もあります。

司会／みちの会の「みち」というのはどう意味のみちですか？

渡辺／手話表現では道路の道を使っています。サークルみちの会の名前の起源は、当時小学生の男の子が頑張っており、その子の名前の一字を取って命名しました。将来末永く、みちの会の発展を願って命名したとされています。

◆障がい者との交流を

司会／ふじみではいろいろ工夫していることとありますか。

高橋／会員のうちの10人ぐらいが持ち回りで毎回講師になって、指文字だけということもあるし、文章や新聞記

事を持つてきて、それを手話表現や読み取りいろいろ工夫しながら勉強をしています。土の会の人とろう者が2人いますから、その方々に観てもらって直すとか、そういうこともやっています。その他ろう者との交流、ろう者のお役に立ちたいなという事はいつも思っています。

司会／渡辺さん、何かこれからこういう点を広げたいとか、気を付けているとか、深めたいとか、その辺どうですか。

渡辺／ろう者の方がどれくらいいるのかわからないんですね。そのなかで災害のときの手助けなんかは必要だなと思いますけど。

司会／そうですね。災害の時のコミュニケーション本当に必要ですね。

渡辺／最近、ろうの子どもたちの放課後に一緒に遊んだり、宿題をみたりとか、そういう子供たちとの活動もこの頃割と多くやっていますが、楽しいですよ。

高橋／今、中央区でもね、けやき体育館で放課後のろう児のお手伝いを月に

4回ぐらいやっています。

小林／以前は小学校で子どもたちに手話を指導するというのも、あったのですが、今は社協を窓口にして、高齢者のサロンにお邪魔しています。ここでは、簡単な手話やお名前とか、懐かしい「ふるさと」とか「四季のうた」を手話で歌ったりします。また、年に一度サークル主催で2日間だけの手話体験という講座をしますが、地域の回覧板で藤野地区、津久井地区、相模湖地区の3ヶ所でPRしてもらっていますので、各地区の方が相模湖に入ってきてくれます。

◆手話をきっかけとして

司会／手話がひとつの表現方法としてそのものの楽しさがありますね。

小林／高齢になって難聴になる方はいらっしゃいますが、そういう方は不自由だけれども仕方がないんだ、それが当たり前なんだということでは日常生活を送っていらっしゃるのではないかと、思うんですね。障害者差別解消法ができて、合理的配慮をしなければならな

いことになって、その中では障害者手帳を持っていなくても合理的配慮をしてくださいねということになっていきます。しかし、市の制度では障害者手帳を持つている人が市に登録して手話通訳とか要約筆記とか派遣してもらうんですけど、地域の自治会の総会では高齢で聞こえない方にノートテイクしてくれる方がいると、助かりますよね。

身近に聞こえにくい人がいるのが現状ではないかと思うんですけど、そういう方は不自由なままで生活しているかも知れないと思います。サロンにいくことによつて手話があるよとか、ちよつとメモしてもらうと助かるよとか、カラオケでも身振りつけながら歌うと楽しいよとか、そういう楽しいものの中から手話を社会の中で認知してもらうのがいいかなと思います。

司会／これからについて話題は移ってきましたが、高橋さんはいかがですか？

高橋／7月28日にろう協、土の会、手話通訳者の会、要約筆記の会の4団体主催で、「聴覚障がい者に係わる災害時

対策を知る学習会」というテーマで開催されました。相模原市には手話サークルが12団体ありますが、主催者側から出席依頼があり、9団体が参加しました。講師は市の危機管理課で内容は「相模原市の防災対策について」でしたが公助だけに期待するのは無理があり、共助が必要だという事が分かりました。

ろう協や土の会からは市へ各地区に聴覚障がい者専用避難所3か所を設けてほしいと要望しましたが拒否されました。結果的には市内105か所の避難所にろう者の皆さんが避難するわけですから、そうなると通訳者だけでは足りないのです、そういう時には是非サークルに支援してほしいという話がありました。手話通訳者からも災害発生時に通訳者は自分の安全を確認し、それから行きますが、その間、サークルにお願いしたいという話もありました。この問題は、一サークルや個人の問題ではないので全サークルで話し合う必要があるのではないかと思います。
司会／ありがとうございます。震度6

強以上の直下型地震が30年間に70%の確率で起きるとなっています。福祉避難所というともうちよつと身体的な介護とかが必要な方が相当の比重を占めますので聴覚障がいの場合、普通の避難所でケアできるのが多分一番いいという感じがしますが、支援の仕方のガイドラインのようなものが生まれていくといいのかもしれない。まずは、一般の避難してきた人たちに聴覚障がいを理解していただいて、それから手伝いの仕方、例えば、「筆談でとりあえずやってみるといいよ」と伝えれば、「なんだそれでいいのか」みたいなやり取りがあつて、役に立ちそうな感じがしますね。そういうことはわかっている人がちゃんと伝えてあげないと一般の方にはなかなかわからないことですからね。

いいお話ありがとうございます。最後になりますが、そのほか、これらのことでこういう点ちよつと気がかり、こういうところをもう少し考えてみたいなんてありましたらご自由にお話しただけだと思います。

◆これから

渡辺／ずいぶん前は、ろう協と手話サークルがわりと交流がありましたね。

サークル同士のつながりも必要だと思うし、ろう協とのつながりも大事にしていったほうがいいんじゃないかって…。いろんなことがあつて集まるものがなくなつてしまつたんですが、是非復活してもらいたくなつていう感じがします。前は新年になると、ろう協の人がカレンダーを持つて「買つてください、買つてください」つて来ていたんですよ。今はそういう人は全然来ません。昔より離れちゃつた気がします。**司会**／小林さん、最後に何かありますか。

小林／地理的にはずれですので、合併したことによつて中央区の市役所の周りに来る機会も増えましたけれども、アクセスがなかなか難しいですね。以前は「サ連（手話サークル連絡協議会）」があつたのを知っていますし、サークルが始まつたころにはサ連に入つて担当者が通つていました、夜に。遠

くてアクセスも大変ということもあつて常時参加というのが現状では難しいですね。何らかの連絡方法ができるというのは大事かなと思います。今は、ろう協の「こういうサークルがありますよ」という一覧表の中にはうちのサークルの名前を載せています。だからそういう形でのアピールはしているつもりです。改めてそういう組織を作るというのめなかなか難しいですね。

高橋／ろう協など主催者4団体は毎月集まつていろいろ話し合ひをしているようですが、各サークルに声をかけてくれればいいのと思うんですが、どうなのでしょう。

渡辺／災害のことですよ、私も出ました。

司会／災害の時の対応を軸にしながら、何か緩やかにお互いが相談できるような状況があるといいですね

小林／やつぱり、日ごろの交流、顔を見知つていふというのが大きいですね。私たちには、個人情報ですのでどなたが聴覚に障がいを持つてらっしゃるかがわからないですよ。そういう

意味で、今はろう協に入る方は少ないんじゃないかと思うんですね。いろんな機器もできていて、聞こえない方も不便が軽減されてきている傾向もあつたりしますよね。昔のように厳しい社会状況じゃないので「ろうあ活動」という必死にならなきゃいけない局面が少ないんだと思います。災害が起こつてからじゃ間に合わないのですけれども…。

司会／ありがとうございます。手話そのもののこととか、手話サークルで何をやってらっしゃるかうかがいましたが、一番印象深いのは、交流とかふれあいとかいったところが大事であるということ、それからもう一つは技術的な高みを目指していくという、そういったようなことが、それぞれのサークルでそれぞれの考え方の中でいろんな工夫がされているということがよくわかりました。最後のほうは、災害の時のこと、これは本当に何か考えないといけない話かもしれません。本日はありがとうございます。

（おわり）

ふくしワンポイント情報

今回も複数回に分けて、「ぼらんていあ通信」に掲載されていた「社協事業紹介」記事を転載させていただきます。よろしく願います。

地区社協・市社協の設立経過③

ボランティア協会の皆さま、こんにちは！相模原市では多くのボランティアの方々、自治会、地区社協、民生委員・児童委員の皆さまが、それぞれの地区で福祉活動に取り組んでいます。

市と市社協も、多くの方々のご協力を得て、「みんなで支え合い地域の力が育む 人にやさしいまち さがみはら」を共通のスローガンとして、地域福祉の推進に取り組んでいます。今号では昭和二十七年以降の「地区社協」の設立や相模原市社協のあゆみについて触れたいと思います。

（前号から続く）町を挙げて社会福祉協議会の設立を目指し、上溝地区社協が昭和二十七年四月二日に発足して以降、町内には橋本、大野北、大野中、大野南、

大沢、田名、麻溝、新磯と、上溝を含めて九つの地区社協が年内に続々と誕生しました。

当時の上溝地区社協の活動は、前例のない中で手探りで始められましたが、時代や地域性を反映した社協らしい活動が「季節保育所」事業として開始されています。その内容は次の通り記録されています

季節保育所の開始

この事業は、上溝地区社協の昭和二十七年度における最大の事業として実施されました。「季節保育所」の開設は、どのようにして提案されたのか。上溝地区内の星が丘部落（県営集団住宅数四百戸がある）に所在する双葉園（保育所）の園長（鈴木女史）から、地区内に農村部落が多いから、ぜひ、季節保育所の設置が必要であるとの強い主張があり、これを取り上げられたならば、その運営には積極的に協力する旨の申し出がありました。

この申し出を受け、社協三名、民生委員一名、保育園長一名、児童保護者約五

十名で構成する「季節保育所開設懇談会」を設置し、保育所開設準備、開設日時、経費の概算、給食方法等について協議し、丸崎部落に開設することで決定しました。

保育所の名称は「丸崎季節保育所」といい、場所は丸崎倶楽部に設置、期間は五月二十六日から一か月間、対象児は満一歳以上から小学校入学までの幼児四十四名、保育の内容は生活指導と保護、保護者は保母（専門者）一名、補助者二名、保育時間は午前七時から午後六時まで、給食は昼食は携行、午前・午後間食二回、父兄負担額一保育児に対し五百円、総予算額三万九千円でスタートする事とし、五月二十五日に開所式が挙行されました。

また、そのほかの事業として「児童遊園地」を一か所、相模線上溝駅前の高台に設けることで、計画の細部を練り、経費は町当局に設置方を申請することで協議してきましたが、その後の交渉は不調に終わり、計画は一時延期となったという記録が残っています。

この季節保育所事業は、当時の上溝地

区に営農者が多く、田植え等の時期には家族総出で農作業に従事していたことから提案されたもので、地域特性を踏まえて、地域内の福祉（保育）施設事業者の視点から提案され実施されたことが、今日においても評価される事象であると思われます。

その後、昭和三十一年に中央、翌三十二年に相模台、四十六年に相武台、四十八年に東林地区社協が設立され、五十九年には中央地区社協が六分割（小山・清新・横山・中央・星が丘・光が丘）されたため、旧市の十八地区体制となりました。

さらに平成十八年三月に津久井、相模湖地区、翌十九年三月には城山、藤野地区が加わり、二十二地区体制になりました。現在も地域特性を生かしながら数々の地域福祉事業を展開しています。

町社協のあゆみ

昭和二十七年の地区社協設立を基盤に、同年九月には相模原町社協が発足します。この当時の町社協の活動を見ると、地区社協活動を支援するための助

成事業（児童遊園整備費や季節保育所）や、民生委員大会の支援など、現在の市社協活動の基盤ともいえる事業が展開されています。

昭和二十九年の市制施行に伴い、町社協から市社協へと改称され、三十三年には専任職員が配置されました。翌年の「心配事相談」事業、三十九年の社会福祉協力センター（後の善意銀行↓五十六年のボランティアセンター）、四十一年のボランティア研修会開催となり、五十四年「ハンディキャブ市民の会」発足、五十六年のあじさい会館オープン、同年の「ボランティア協会設立」と繋がっていくのです。これ以降、ボラ協と市社協の協働によるボランティアセンターの運営が現在まで継続されています。

市社協 田所

この記事の内容は、平成三十年十月発行のぼらんていあ通信から転載したものです。

わくわく編集委員及び印刷・製本ボランティアさん 募集！！

編集委員として、企画から取材・座談会など幅広くボランティアに関する情報を、できるだけ新鮮なまま読者に提供できるよう活動していただける人材を募集しています！

また、編集に携わるのは無理でも印刷や製本のお手伝いならできるかも……。というボランティアさんも大募集です！

お気軽に、まずは電話をしてきてください。お待ちしております。

連絡先 ☎252-0236

相模原市中央区富士見6-1-20

相模原市立あじさい会館中央ボランティアセンター内

相模原ボランティア協会 広報委員会わくわく部会 まで

TEL 080-3175-2139（小倉）

ボランティア活動グループ訪問記 「ボランティアセンターあさみぞ」

今回は活動を始めて間もない「ボランティアセンターあさみぞ」の新しい活動を紹介します。

連日猛暑日の八月七日(金)午前、南区下溝モナの丘近く相模福祉村虹の家に隣接する福祉型障害児入所施設



ゴマ粒のような種を
Sポットに3粒埋めます

設「相模はやぶさ学園」におじゃましました。ここは小学生から高校生までの親元で暮らすことが困難な子どもたちが生活しています。定期的に学園の周りにある畑で、野菜の種まきなどを、ボランティアの方々と学園の職員、入所児童の皆さんと一緒にやって行っています。

十時半すぎ挨拶もそこそこに建物の裏手にある畑へ行く。二班に分かれての作業で、まず大きい年齢の子供たち六人ほどが、ボランティアの皆さん、施設の職員と一緒に作業開始。苗ポットに畑の土を入れて種を三粒ずつ指で落して、その指先で一センチほど押さえ込む。簡単な作業のように見えますが、暑さもあり積極的な子どもたちと、マイペースな子どもたちと様々。それでもみんな一生懸命取り組んでいました。次に畑の中へ入ってナスとオクラを収穫。ナスは食べごろの大きさでつやつやしてとてもおいしそうです。少



畑に行って丸オクラとナスの収穫

し大きくなりすぎたオクラは、スーパーでよく売っている星形ではなくて丸形で柔らかくて食べやすいそうだ。食えることが好きだとか嫌いだとか、様々な意見がでて賑やか。ボランティアさんも職員さんも皆一体になってワイワイガヤガヤ。テントの中では冷たいお茶を飲んで少し休

憩。

後半は八人ほどの小学生のグループがやって来て、今度はブロッコリーの種まき。ボランティアさんの説明を受け、先ほどと同じように作業を進めます。そのあとはサツマイモの苗の植え付けだとか。みんな汗びっしょりで真剣そのもの。子どもによつて感じ方は様々ですが、ほんの少しずつでも土にさわったり、小さな種から育っていく様子を見たり、水やりの大切さを学んだりすることで、一人ひとりが学び成長していくのだと感じました。だからこそ、実際に収穫した野菜をよく味わって食べるのが出来るのではないでしょうか。

「水をやるときはポットの下から水が流れ出るまでたっぷりやる」「水をやったら日陰に置いておく」「三日間ぐらいで芽が出てくる」ことなどをボランティアさんがやさしくやさしく説明していたことが印象

的でした。

「ボランティアセンターあさみぞ」おもしろたかしについて事務局長の大森孝さんにお話をうかがいました。

市の福祉コミュニティ形成事業の一環として、地域のボランティアグループと民生委員そして近隣の学校の先生も加わり、ボランティアセンターを立ち上げて今年で二年目を迎えました。牽引する人が少ない中で試行錯誤を繰り返しながら進めています。会員は六十四名。運営コーデイネーターを置き毎週水・金曜日午前中に活動しています。個人からの依頼であつたり、ケアマネさんの紹介などもあり地区社協の協力も得ながら進めています。日々寄せられる様々な依頼の中から活動出来るものを決めていきます。今日の相模はやぶさ学園の活動もその一つです。

ほかに近隣学校の登下校の見守りを週二回、月・火曜日に行っています。

(小林、植野)

ボランティアセンターあさみぞ

〒二五二-〇三三五

相模原市南区下溝七五六-六

三和麻溝店 B館三階

麻溝高齢者支援センター内

電話 〇四二-七二一九九九五

このグループ訪問の記事は、「平成二十七年八月号の『ぼらんていあ通信』に掲載されたものを転載したものです。内容について一部古いものがあるかもしれませんが、記事作成当時の内容です。ので、ご容赦ください。

おおさむ こさむ

八木幹夫

個人的なことだけど

わたしは

五〇年前の一月に生まれた

五〇年前の二月には

当たり前のことだけど

生後一ヶ月

あたたかい

母の乳房にしがみついて

あるいは

背中に背負われて

戦後の貧しい冬の

寒さなんか

なんにも知らなかった

お正月の松飾りもとれて

父も母もない

二月の空から雪がふってくる

大寒 小寒 山から小僧が飛んできた」

母は背中で眠る

わたしに

唄ってくれたのだろうか

個人的なことだけど

朝の始まり

八木幹夫

ここから見えないが

川から立ちのぼる

霧に

山並がかすみ

庭先に積もる広葉樹の葉の

霜が溶けはじめ

ここからは見えないが

リスが鳥の餌台にやつてきて

去年の夏に収穫した

ヒマワリの種を

かりかりと噛んでいる

ここからは見えないが

雑木林をくぐり抜けた

ひかりが

農夫の背にあたり

振り上げる鍬が

湿った土を規則正しく

畝っていく

ここからは何も見えないが

ドアの隙間から

強い光が射し込んで

ベッドの上で

今朝 わたしの想像力は

まだ傷ひとつない

ドアを開けると

友人の

奥さんの

パンを焼く匂いがする

(津久井にて)

【田典】

八木幹夫

詩集 めにはさやかに

著者 八木幹夫

発行 1998年7月7日

発行者 鈴木一民

発行所 書肆山田

今回は
相模原ボランティア
協会理事

杉本栄治さんを

ご紹介します。

相模原ボランティア協会事務局で
お会いしました。杉本さんは、ボラ
ンティア協会の理事のほか、
○上溝・石橋地区の自治会長



○災害ボランティアネットワーク副
代表等にもなっていて、いらいしやいま
す。

活動は

ボランティア協会に入会したのは
二〇一〇年。定年後やることなく
て、何か始めようと相模原のカルチ
ヤースクールでスケッチを始めまし
た。

そこに先輩として元理事の吉留さ
んがいらして、吉留さんに誘われて
入会。運転ボランティアに登録し、
その後委員会に所属し、二〇一四年
に理事になりました。

現在は、ハンディキャブ委員会の
理事として、ドライバーの減少等の
悩みなど、いろいろの問題を皆と話
し合っています。

ご出身は

新潟県南魚沼市。「こしひかり」
で有名なところ。高等専門学校
を卒業後、NECに入社し、武蔵小

杉、相模原、熊本、広島等で半導体
の設計、開発や生産技術に従事して
きました。

熊本にいた時、同じ職場にいた妻
と出会い結婚。相模原に住居を建
て、現在に至っています。

ご家族は

妻と二人で暮らしています。
子どもは男三人、女一人で、それぞ
れ独立しています。

なお、妻はボランティア協会の事
務局に週一回、五年ほど前から勤め
ています。

ご趣味は

スケッチ仲間とグループ展を年一
回開いています。

それから「碁」をやっています。
週一回の日曜日です。

一級で入会して今年十一月の大会
で優勝して初段になりました。六年
ほどかかりました（笑）。最近では妻
にも負けています（再笑）

また、家の隣に空地があり、地主さんをお願いして無料で借用し、そこで野菜を作っています。

トマト、キュウリ、ナス、ジャガイモ、玉ねぎ、サヤエンドウ等です。

土物の大根、ジャガイモ等は簡単ですが、葉物のキャベツ、ホウレンソウ等は、虫が付きやすく肥料も大変なので難しいです。

それから、十五年前くらいから「般若心経」を毎朝大声で東の方に向かって唱えています。精神的な意味は特にありませんが、健康にいいのでしょうか。

最近読んだ本は

葉室麟さんが好きです。前から山本周五郎、藤沢周平など、時代小説が好きでしたが、その流れで葉室麟さんが好きになりました。

大切にしていることは

学生時代に「生まれたる日の如く、死ぬる日の如く」という言葉に

出会い、生きてゆくための指針としています。さわやかな気配が好きです。

これからの自身は

あと二年で後期高齢者。淡々と、こだわらずに生きていきたいと思っており、体と頭と心が健康なうちは無理のない範囲で社会に参画したいと思っています。

優しい爽やかな笑顔で毎日を元気に過ごされている様子が伝わってきます。

ボランティアや協会のために、これからもお元気にご活躍ください。

取材・山本和子

(取材二〇一九年十二月二日)



ここに杉本さんの描いたスケッチを。「東尋坊」です。

相模原の史跡 磯部頭首工

このページでは相模原の史跡を紹介します。

頭首工という名称が面白いので、ネットで検索してみると、以下の解説がありました。「湖沼、河川などから、用水を取入れる農業水利施設の総称。おもに取水堰と取入れ口

(取水口) から成る。取水堰は、用水取入れに必要な水位を確保するためのもので、土砂吐き、魚道、流木路、いかだ道などをつける。また取入れ口はむだなく計画水量が取水できるような形状と配置が必要で、ちりよけ格子、土砂吐き、沈砂池などを設け、流量調整のための制水門をつける。」英語のヘッドワークの直訳でこういう名前がついたのだらうなと想像しました。

磯部のこの施設は県営相模川左岸排水事業の一環として、昭和10年12月に着工し、延べ2万人の人力によって5年で竣工したといえます。これによって、新磯、座間、海老名などなど多くの水田を潤すこととなりました。

水門から3〜400m南で水路を分けて、相模川の地下を通って、対岸の厚木地区にまで水が行っているといえます。

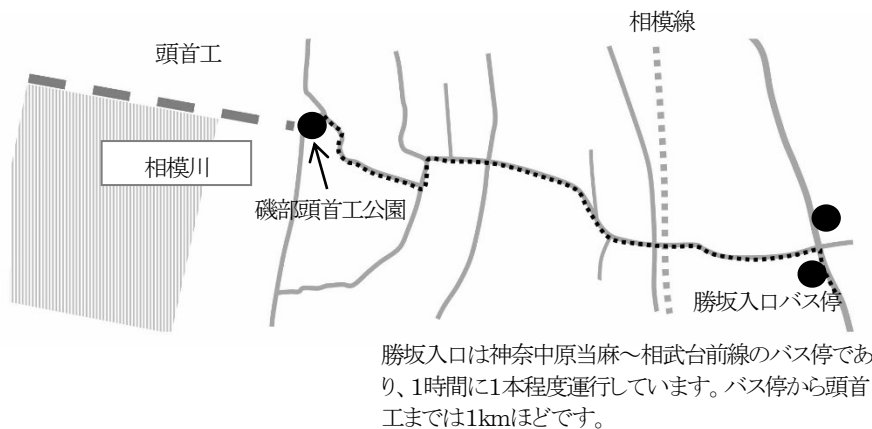
この用水路は寛文年間(1661〜72年)に当時の領主久世大和守広之によってはじめられたと伝えられ、その後取水口は、南に移り、寛政年間(1789〜1801年)には



磯部頭首工
手前が魚道になっています

現在の場所になっています。洪水による破損もあり、木造のため維持するのは大変だった

ようで、地頭の補助や御国役普請を願い出ていました。しかし、明治以後は政府の補助はなく村の負担で行ったようです。



勝坂入口は神奈中原当麻〜相武台前線のバス停であり、1時間に1本程度運行しています。バス停から頭首工までは1kmほどです。

※座間美都治著 相模原の史跡を参考にしました。

わくわくさん

作 髯野 克己
絵 鹿野 徹子

わいの温暖化対策



高齢者・障がい者の相談は

介護保険に関する相談窓口

042-769-8321

介護保険課

給付・保険料 042-769-8321

認定 042-769-8342

緑高齢者相談課 042-775-8812

中央高齢者相談課 042-769-8349

南高齢者相談課 042-701-7704

城山保健福祉課 042-783-8136

津久井保健福祉課 042-780-1408

相模湖保健福祉課 042-684-3215

藤野保健福祉課 042-687-5511

障がい者の相談窓口

緑障害福祉相談課 042-775-8810

中央障害福祉相談課 042-769-9266

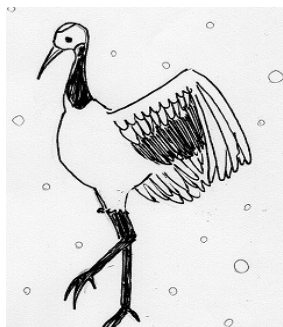
南障害福祉相談課 042-701-7722

城山保健福祉課 042-783-8136

津久井保健福祉課 042-780-1412

相模湖保健福祉課 042-684-3216

藤野保健福祉課 042-687-5511



「朝」

右に傾けた頭を右手のこぶしにのせた後、頭を起こすと同時に腕を下す。



朝9時からはいれません

今回も、手話の基本的な会話を覚えていきましょう。

基本的な単語を覚えることで、簡単な会話を楽しむことができます。

「から」

親指側を上にして指先を相手に向けた右手を胸の前で右から左へとまっすぐ移動させる。



「9」

右手の甲を前方に向け、親指を立て他の4指を横に伸ばし、数詞「9」を作る。



「時間」

左手を軽く握り、右手の人差し指で左腕の手首を指さす。腕にはめた腕時計を示すことで時間を表す。



単語を変えることで意味が変わってきます。

「できない」

右手の親指と人差し指で、右の頬を軽くつねる。



「入る」

右手の人差し指の腹に左手の人差し指の先をつけて漢字の「入」の形を作り、前方へ倒す。



「出る」

「○を出す」という意味の「出る」は、建物から出発する様子で表します。



「以後」

前方は「未来」を示します。固定した左手で「ある」時点を示し、右手の動きでそれより後であることを表現します。



「以前」

後方は「過去」を示します。固定した左手で「ある」時点を示し、右手の動きで、それより以前であることを表現します。



「やせる」

両の手を体側にそって下におろす。贅肉を落とす感じ。



いかがでしたでしょうか？会話がしたくなりましたね。
続いて、痩せるために時々泳がないといけない。

「使う」

「お金を使う」という表現です。数回転かすと「たくさん使う」、ゆっくり動かすと「少しずつ使う」という意味になります。



「必要がある」

親指以外の4指を折った両手先を体の前で向かい合わせて引き寄せる。



「泳ぐ」

両手の手の甲を上にして並べ、前方へ突き出すと同時に、円を描くようにして再び並べる。平泳ぎの泳ぎ方から。



「～のために」

左手を軽く握って胸の前に置き、左手のくぼみに右手の人差し指を当てる。



パズルにチャレンジ 解答編

前回の問題は難しいと言われるラグビーの用語でした。
知っているテレビ観戦ももっと楽しくなります。

①ノ	ー	サ	イ	②ド		③イ			
ッ				④ラ	イ	ン	ア	ウ	ト
⑤ク	ロ	ス		イ		ゴ			
オ						ー			⑥ス
ン		⑦ラ		⑧ゴ	ー	ル	キ	ッ	ク
	⑨ハ	イ		ン					ラ
⑩オ		イ		⑪バ	ン	ド			ム
⑫フ	ラ	ン	カ	ー			⑬パ		
サ		グ		⑭ジ	ン	ビ	ン		
イ				ヨ			⑮ト	ッ	プ

タテのかぎ

- ① ボールを前に落としてしまうミス
- ② 敵地のある地域にボールを着地させること
- ③ ボールを着地させればトライがとれる地域
- ⑥ FW8人同士ががっちりと組むあれのこと
- ⑦ ○○○○○オンザボール。ボールの上乗る
- ⑧ トライの後のキック。○○○○○○ンキック
- ⑩ ボールを持つ人より前でプレイはしないこと
○○○○ド反則だよ
- ⑬ ボールから手を離し地面に落ちる前に蹴る



ヨコのかぎ

- ① 試合が終われば……。
- ④ ラインの外にボールが出た時の再スタートは？
- ⑤ 交差する瞬間にパスを出すことをいう。
- ⑧ ゴールポストの間の上にボールを通すキック
- ⑨ 前方に高く遠く蹴りだす〇〇パントキック
- ⑪ スクラムやラックで地面のボールを手で出す
- ⑫ FWでスクラムの3列目の左右で戦う
- ⑭ 反則選手を一時退場させること
- ⑮ モールやラックで相手側に倒れこんで妨害する
オーバーザ〇〇〇

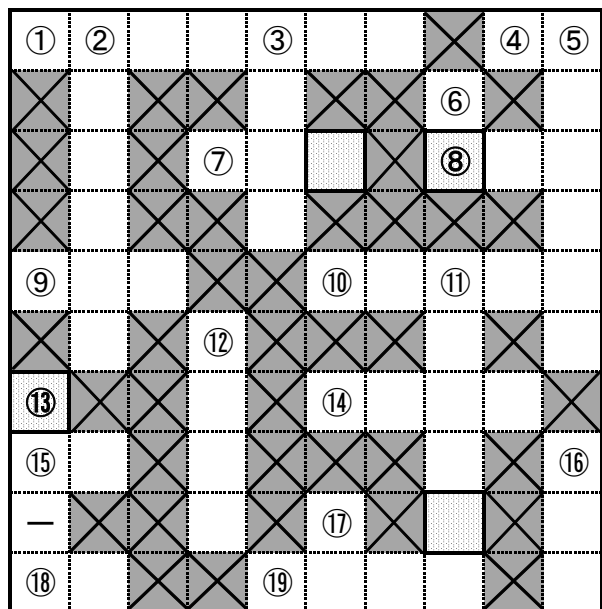
濁音、半濁音はどちらでも、なしでもありでも読めるということで。ブ フ プ 全部OK

口の3文字を集めましょう。
パスを出した後、パスを受けたプレーヤーの背後を回るように外側に走り、またパスを受け取るプレーの事です。
こたえは ループ です。



パズルにチャレンジ 問題編

今回の問題はフィギアスケートの用語です。
聞いたことはあるけど、どういう意味でしょう。



ヨコのかぎ

- ① 十分回転しないで着地するジャンプ
- ④ 2人でスケートをする
- ⑦ ブレードが氷に直接接する部分
- ⑧ ○○○オーバー。足を交差させて踏み出す。
- ⑨ 4回転ジャンプのこと
- ⑩ フライ○○○○○。一度飛び上がってする。
- ⑭ 軸足がインサイドエッジのまま踏み切るジャンプ
- ⑮ ○○大陸フィギアスケート選手権
- ⑱ ブレード先端のギザギザ部分
- ⑲ スエーデンのウルリッヒにちなむジャンプ

タテのかぎ

- ② 荒川静香さんといえばこれが有名
- ③ ジャンプのひとつ。
- ⑤ 2人で滑る競技のひとつ
- ⑥ リ○○。滑る場所のことをいう。
- ⑪ ○○○○○○ト。ジャンプの着氷での乱れ
- ⑫ 前向き踏み切りで跳ぶジャンプ。
- ⑬ フリーの前に行われる種目のこと
- ⑯ ペアとアイスダンスの必須要素
- ⑰ カッ○○。アイスダンスで組む男女をいう。

濁音、半濁音はどちらでも、なしでもありでも読めるということ。

□の4文字を集めましょう。
ジャンプで踏み切る足を指します。
□ □ □ □



私が選んだハイキングコース ～淵野辺駅から公園とJAXA～

はやぶさⅡがミッションを実行するたびにTVでさかんに語られるJAXAは宇宙科学研究所、航空宇宙技術研究所、宇宙開発事業団の3機関が統合して、独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）として発足したものです。JAXA 相模原キャンパスは米軍のキャンプ淵野辺の跡地利用の一環で、周囲の公園などとともに設置されています。最寄り駅である淵野辺駅南口から歩いてみました。

①駅前ロータリーの右側の緑地に、珍しく日時計が設置されています。これは一見の価値があります。さて、駅前をまっすぐ南に歩くと、100mで鹿沼公園入口となります。でいらぼっちの足跡といわれる「かぬま」という、昔からあった沼を中心に都市公園として整備されたところです。

②鹿沼公園は交通公園と白鳥池と緑地、そしてテニスコートと野球場からなります。交通公園にはSLがどっしりと鎮座しており、ちびっこ達の乗り物体験場としてもにぎやかです。公園内を散策すると、白鳥が何羽かいて、春は満開の桜が迎えてくれます。

③公園を出て、東側に60m歩いて再び右折し公園脇の道を南へと向かいます。300mで淵野辺十字路です。横浜から八王子に抜ける国道16号と上溝に向かう市道の交差点であり、交通の要衝です。

④交差点を左（東）に向かって16号の歩道を歩きますが、170mで、すぐに右折横断し、さらにそのまま南へ進みます。相模原中央支援学校の前を通過し、学校の角、180mの場所で左に折れて歩道を進みます。

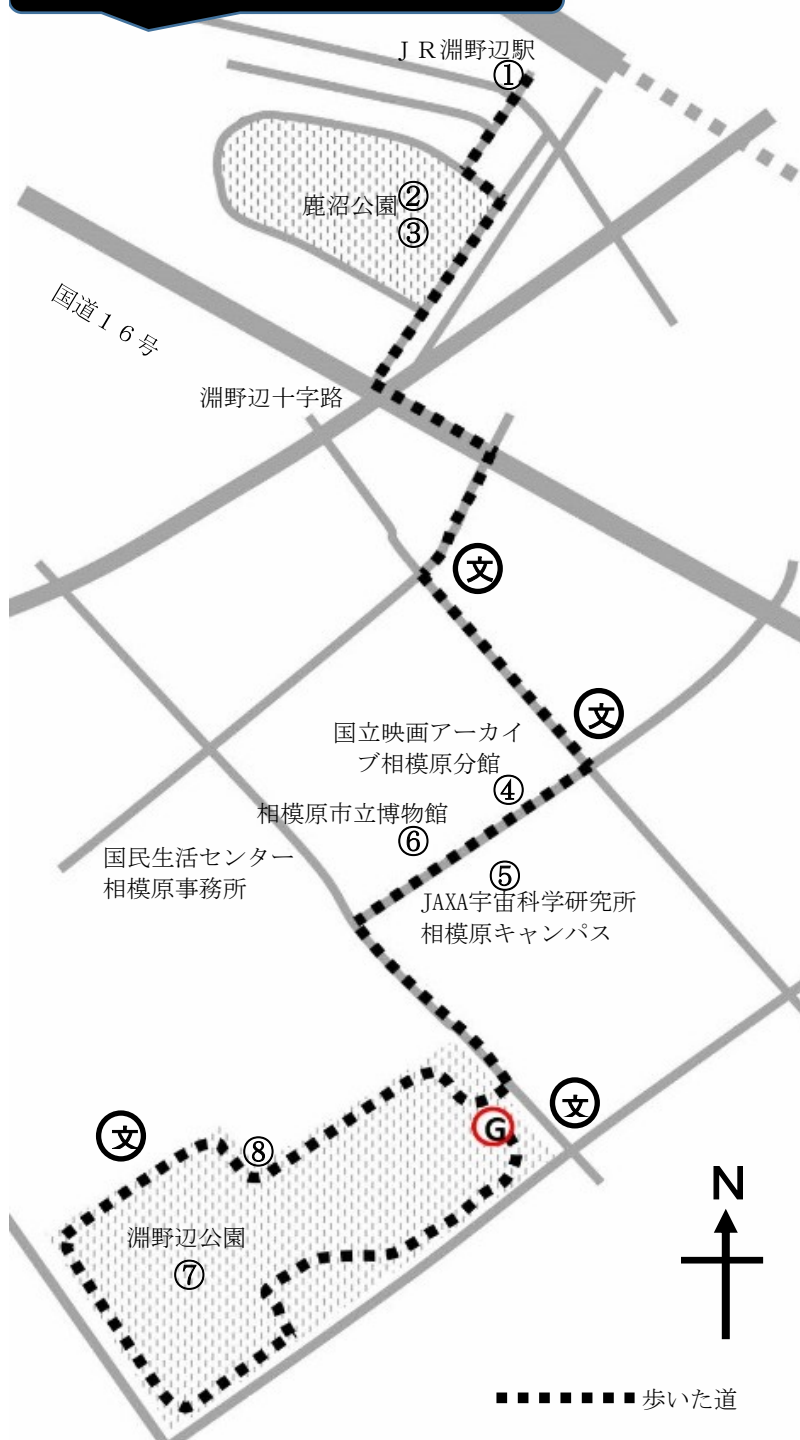
⑤350m進み、左側の共和小学校の角で右へと曲がりますと、ここから今回の目的的地帯に入っていきます。右側には映画アーカイブ相模原分館と私立博物館、左側にJAXAがあります。博物館とJAXAは見学が可能です。ごゆっくりどうぞ！

⑥350mでT字路にあたりますので、左折し300mで淵野辺公園の入り口となります。公園の中には芝生広場、プールとスケート場の銀河アリーナ、野球場とこども野球場とテニスコートがあり、1周約1700mのジョギング道（歩きも可能）を回れば、今回の歩きは完了となります。

⑦片道約3500mの軽い歩きです。帰途は同じ道を歩いてもよし、循環バスを利用して駅に戻ることもできます。

（西本 敬）

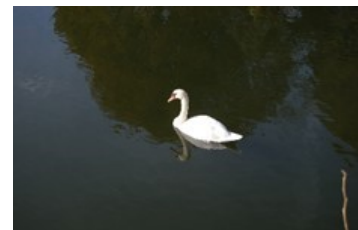
淵野辺駅から淵野辺公園へ



① 淵野辺駅南口の日時計



② 鹿沼公園 鹿沼



③ 公園のマスコット白鳥



④ 国立映画アーカイブ相模原分館



⑤ JAXA宇宙科学研究所



⑧ 公園内のジョギングコース



⑦ サーティフォー相模原球場



⑥ 相模原市立博物館

一情報のページー 相模原の高齢者支援センター

これまで地域包括支援センターとして掲載したことがあります。掲載してから 10 年以上経過しているため名称も高齢者支援センターに変わっています。改めて保存版として再計します。(相模原市ホームページより抜粋)

No	名称	所在地	電話
1	橋本高齢者支援センター	相模原市緑区西橋本 3-1-14	042-773-5812
2	相原高齢者支援センター	相模原市緑区二本松 3-4-7	042-703-5088
3	大沢高齢者支援センター	相模原市緑区大島 1583-1 介護老人 保健施設グリーンヒルズ相模原内	042-760-1210
4	城山高齢者支援センター	相模原市緑区久保沢 1-3-1 城山保健福祉センター第 1 別館 1 階	042-783-0030
5	津久井高齢者支援センター	相模原市緑区中野 966-5	042-780-5790
6	相模湖高齢者支援センター	相模原市緑区与瀬 896 相模湖総合事務所 1 階	042-684-9065
7	藤野高齢者支援センター	相模原市緑区小淵 2000 藤野総合事務所 3 階	042-686-6705
8	小山高齢者支援センター	相模原市中央区宮下 1-1-21	042-771-3381
9	清新高齢者支援センター	相模原市中央区清新 3-6-1	042-707-0822
10	横山高齢者支援センター	相模原市中央区横山台 1-1-1 田所コーポ 1 階 3 号	042-751-6662
11	中央高齢者支援センター	相模原市中央区千代田 1-6-2 アスカマンション 1C 号	042-730-3886
12	星ガ丘高齢者支援センター	相模原市中央区星ガ丘 3-6-21 マルセイハイツ 1-105	042-758-7719
13	光ガ丘高齢者支援センター	相模原市中央区光ガ丘 2-18-87 光ガ丘ふれあいセンター内	042-750-1067
14	大野北第 1 高齢者支援センター	相模原市中央区淵野辺 3-20-15 淵野辺コート 1 階	042-704-9551
15	大野北第 2 高齢者支援センター	相模原市中央区鹿沼台 1-3-17 1-C 号室	042-768-2195
16	田名高齢者支援センター	相模原市中央区田名 1262-5 D+STYLE 上田名ビル 1 階	042-764-6831
17	上溝高齢者支援センター	相模原市中央区上溝 7-16-13	042-760-7055
18	大野中高齢者支援センター	相模原市南区古淵 3-28-1 ランバパート 6 1 階	042-701-0511
19	大沼高齢者支援センター	相模原市南区荻松 4-17-13 ソフィアビル 1 階	042-705-5435
20	大野台高齢者支援センター	相模原市南区大野台 5-19-15 シルバータウン大野台ケアセンター内	042-758-8278
21	大野南高齢者支援センター	相模原市南区相模大野 3-1-33 丸徳ビル 1 階	042-767-3701
22	上鶴間高齢者支援センター	相模原市南区上鶴間本町 6-28-14	042-767-2731
23	麻溝高齢者支援センター	相模原市南区下溝 756-6 三和麻溝店 B 館 3 階	042-777-6858
24	新磯高齢者支援センター	相模原市南区新戸 1716 新戸デイサービスセンター内	046-252-7646
25	相模台第 1 高齢者支援センター	相模原市南区南台 5-12-21 品田ビル 1-A	042-767-3888
26	相模台第 2 高齢者支援センター	相模原市南区相模台 6-12-11	042-741-6665
27	相武台高齢者支援センター	相模原市南区新磯野 4-1-3 相武台きちづくりセンター・公民館内	046-206-5571
28	東林第 1 高齢者支援センター	相模原市南区東林間 5-5-1	042-740-7708
29	東林第 2 高齢者支援センター	相模原市南区相南 1-7-17	042-705-8278

あなたもハンディキャップボランティア号に 乗ってみませんか

～協会PRのページ～

協会では運転や介助のボランティアをやっていただける方を募集しています。また、ボランティアをやってみようという方のために1日体験の機会をもうけています。地域社会へのデビューのチャンスです。どうぞチャレンジしてみてください。



車の運転ならま
かしといて下さ
いよ！

ご自分の車で活動に参加できる方式（セダン方式）も採用しています。この機会にどうぞご参加ください。

ご存知ですか？「傾聴ボランティア」

元気だった頃は、友達に会い、会合にも出ていたけど、最近はほとんど人に会うことがなくなりました。そのような方がお近くにいませんか？ 傾聴ボランティアがお役に立つかも知れません。お話ししたいことを聴いてくれるボランティアです。お宅に2名で訪問して、1時間、ゆったりとした楽しい時間をともにします。

連絡先

〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20

市立あじさい会館2階中央ボランティアセンター内

電話／FAX 042(759)7982（相模原ボランティア協会）

編集後記

☆令和も2年目に突入しました。時間経過の速さに、ああこうやって年を重ねるのかと嘆くこの頃。しかし、好奇心は衰えない。

(西)

☆白内障と総胆管結石症の手術を相次いでやりました。スツキリクツキリです。

(髭)

☆二〇二〇年。オリンピックアワー。輝かしい年になりそうです。私も八十六歳、輝いて百歳まで頑張ります。

(和)

☆今年は暖冬という事でスキー場は雪不足だという事です。でも、年々寒さが厳しく感じられるのは、歳のせいですかね。基礎代謝を高めるように運動しないといけませんね。

(倉)



さがみはら ぼらんていあ情報誌 季刊

わくわく 2020 冬号 (第48号)

2020年1月25日発行

編集人 小倉 義男
西本 敬
髭野 克己
山本 和子
高橋 功
勝部 幸三

イラスト 鹿野 徹子

編集・発行・印刷；

特定非営利活動法人 相模原ボランティア協会
広報委員会内 **わくわく** 編集部会

本誌に使用している用紙（表紙を除く）はイオングループから提供されたものです。

表紙の絵

障害者地域活動支援センター「ウッディショップきこり」の栗下加奈さんの作品です。にぎやかな顔の行列が楽しいですね。「きこり」は木工作業を中心に木のハガキ（動物や花）を制作しています。

また、毎年メンバーの絵をカレンダーにして好評を博しています。



さがみはら ぼらんていあ情報誌 **わくわく** 2020年冬号（第48号 1月25日発行）
発行：特定非営利活動法人 相模原ボランティア協会 広報委員会わくわく部会
〒252-0236 相模原市中央区富士見6-1-20 あじさい会館中央ボランティアセンター内
☎042-759-7982 URL <http://sagamiva.info/> e-mail: sagamiva@feel.ocn.ne.jp